

社会福祉法人における新型コロナウイルス感染症への対応と

風評被害の実情

新型コロナウイルス感染症の拡大にともない、社会福祉施設・事業所の現場に対する応援メッセージが寄せられる一方で、新型コロナウイルス感染が発生した法人・施設、またそこで従事する職員に対する誹謗・中傷が発生しており、利用者の生命と安心を守るために奮闘している現場にとって、モチベーションの低下や対応の負担が大きなダメージとなっています。

また、感染が発生していない法人・施設に不確かな情報や誤った情報等により不安を感じた地域住民からの問い合わせが殺到し、その対応に追われている状況もあります。

●風評被害の事例

CASE①

感染発生施設においては、医療関係機関等の支援とともに、必要な感染拡大防止策のもとに支援が継続されていることが理解されていない

CASE②

病院等と同様に、日ごろよりも限られたスタッフ数のなかで、感染拡大防止のために家族等とも会えずに、利用者を支え続けている職員の奮闘が評価されない

CASE③

福祉施設（集団生活）というだけで誹謗・中傷の対象となり、その対応が現場にとって心身の負担になっている

●国民のみなさまへ

私たちにとって、皆さまからの最大のご支援

サービスの提供と継続を温かく見守っていただくこと

新型コロナウイルスの感染拡大、長期化により介護、保育などの福祉現場が崩壊する懸念が高まり、現場の福祉従事者も疲弊しています。これまでも国民のみなさまから、医療従事者とともに介護・福祉従事者に対して、温かいエールをいただけてきましたが、一部の地域では不確かな情報や詮索などにより、風評被害につながるような行動（うわさ話やSNSなどでの拡散）が発生しています。福祉従事者のみならず、そこで生活する利用者の方々への誹謗・中傷も散見され、ご家族ともども何より心を痛めています。

（メディア関係者のみなさま）

医療関係機関等と同様に現場職員の奮闘をリアルにお伝えいただき、最前線で活躍する現場職員を是非とも応援してください。

●社会福祉法人としての使命

福祉サービスの「主たる担い手」として、今般の新型コロナウイルス感染症の感染拡大という国難を乗り切るため、福祉サービスの利用者だけでなく、地域に暮らす人びとの「生きる」を支えています。

【利用者の「生きる」を支える取組】

- ▶ 様々な困難を抱えながらも、入所施設はもとより、通所や訪問などによる福祉サービスを継続し、強い使命感をもって利用者の生活を守り抜くために支援
- ▶ 福祉サービスを継続し続けるために、医療関係機関等との連携のもと、衛生管理、職員およびその家族等の体調の確認等を徹底
- ▶ 利用者のQOLの向上、心身のストレスを少しでも軽減するために、家族等の面会についても、タブレット端末などを利用した「オンライン面会」や園庭での「青空面会」等を実施

【地域住民の「生きる」を支える取組】

- ▶ 社会生活を支えるために尽力されているさまざまな方々のご家庭の介護や保育等を支えるために、社会インフラとして福祉サービスの提供を継続
- ▶ DVや児童虐待等の防止に向けて、課題を抱える家庭への支援を展開
- ▶ 一人暮らしの高齢者や障がい者の方々に対して訪問や電話などによる安否確認を実施

こうした社会福祉法人の使命を果たすため、国に対して要望を行っています。(別紙参照)

<本件に関する報道各位からのお問い合わせ先>

全国社会福祉法人経営者協議会 事務局

TEL : 03-3581-7819 (平日 9:30~12:00、13:00~17:30) FAX : 03-3581-7928

E-MAIL : zenkoku-keieikyo@shakyo.or.jp

<全国社会福祉法人経営者協議会 組織概要>

所在地	〒100-8980 東京都千代田区霞が関 3-3-2 新霞が関ビル		
代表者名	会長 磯 彰格 (いそ・あきただ)	設 立	1981年
H P	https://www.keieikyo.com/		